

那須町の魅力

那須高原(那須町)は、東京から約180kmの距離、東京と仙台のほぼ中間に位置する観光と農林業の町です。北西部には雄大な那須連山の主峰・茶臼岳(1,915m)がそびえ、山麓地帯には舒明2年(西暦630年)開湯の歴史ある那須温泉郷、多くの宿泊施設や別荘地、殺生石などの史跡やテーマパーク、さらには皇室の方が静養する御用邸があることから「ロイヤルリゾート那須」として知られています。また、裾野には広大な酪農地帯、南東部には八溝の山並みに抱かれた里山の農村風景が、松尾芭蕉や義経伝説に代表される様々な史跡と共に広がっています。

自然

Nature



八幡のつつじ園地

環境省かおり風景100選・栃木県景勝100選の「八幡つつじ群落」。標高1,040mの八幡つつじ園地には、毎年5月中旬から6月中旬にかけて、約23haの園内一面が真っ赤やピンクのつつじ色に染まります。八幡のつつじ園地をはさんで、北側には茶臼岳を中心に那須の山々が連なり、東南には広大な那須高原が広がっています。

Spring



チューリップ
撮影場所 那須フラワーワールド

Summer



リンドウ
撮影場所 牛ヶ首

Winter



スノーシュー
撮影場所 那須平成の森

Autumn

駒止の滝

この滝は幅約3m・落差約20m。余笹川の断崖を落ちるもので、「那須第一の滝」と言われています。昔、ここを通る旅人は勿論、馬までもこの滝の華麗さに足を止めて滝を眺めたので「駒止の滝」と呼ぶようになったと言われています。観瀑台からは、初夏には新緑、秋には紅葉に色どられた滝の全景を鑑賞することができます。近くには駐車場もあり、どなたでも美しい滝の姿を間近に見ることができます。



特産品

Specialty



地域が誇るブランド「那須和牛」

「那須和牛」は丹精込めて育てられた地域ブランド牛。レストランやホテル・旅館等で食べられるほか、精肉店でも販売しています。



生乳生産量本州第1位!

那須山麓の清涼な空気の中で育った健康な乳牛から搾った那須高原産の牛乳、チーズやヨーグルトなどの乳製品も自慢です。



那須町の農産物

那須町は標高約200mから1,000mにかけての広い地域で栽培される農産物の種類の多さと標高差があることにより収穫期間が長いことが特徴です。

温泉

Hot spring



鹿の湯

那須温泉郷は、今から約1390年前の舒明2年(630)、狩野三郎行広の鹿の湯(元湯ともいう)発見に始まり、明治以前に板室、三斗小屋、大丸、北、弁天、高雄と次々に温泉が発見され、これを那須七湯といい、すでに江戸時代には世に知られていました。明治時代に八幡温泉が、大正時代には、旭、飯盛、郭公が発見され、さらに、大丸温泉の湧出湯を自然流下によって引用した新那須温泉を加えて那須十二湯と呼ばれていたこともありましたが、現在では、地理的にやや離れた板室を除いて、那須十一湯と呼ぶのが主流となっています。また、旭、飯盛、郭公温泉には現在、宿や温泉の設備はなく、温泉跡地と化しているため、那須温泉(鹿の湯)、三斗小屋温泉、大丸温泉、北温泉、弁天温泉、高雄温泉、八幡温泉を那須七湯、新那須温泉を加えて那須八湯と呼ぶこともあります。

国指定名勝「おくのほそ道の風景地」

遊行柳、殺生石は、それぞれ平成26、27年に国指定名勝「おくのほそ道の風景地」に指定されました。

●遊行柳：江戸時代、奥州道中の開設とともに芦野は宿場町、城下町として栄えてきました。松尾芭蕉は奥の細道道中、高久、湯本を訪れ、芦野の遊行柳で「田一枚植えて立ち去る柳かな」の句を詠んでいます。

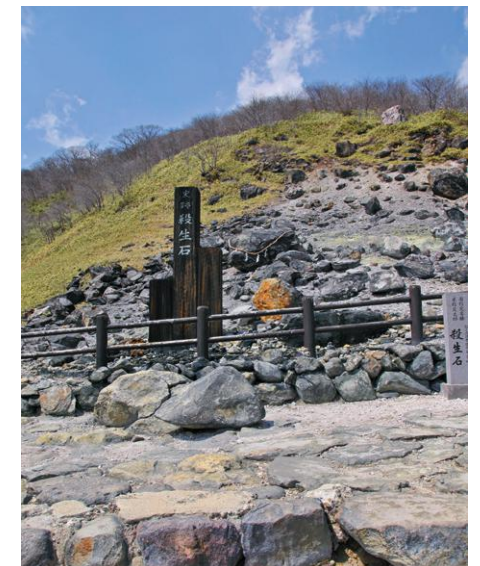


遊行柳

●殺生石：殺生石は、那須岳の丘陵が湯本温泉街にせまる斜面の湯川に沿ったところにあり、大昔、中国やインドで悪行をつくした「九尾の狐」伝説にまつわる史跡で、栃木県指定史跡となっています。狐が化身したといわれる大きな岩の周辺では、今なお独特な硫黄の香りが漂っています。また松尾芭蕉もこの地を訪れ次の句を詠んでいます。「石の香や 夏草赤く 露あつし」

史跡

Historical site



殺生石